

ウスタビガ

11月20日の朝、起き抜けに何気なく玄関をみるとガラスに翅を広げた蛾の影が映っている。「ウスタビガだ！」と、・・・考えるまでもなく分かった。が、一応裏から回って確認すると確かに♀のウスタビガだ。今年もやってきた山姥。昨夜から泊まっているのだろうか？カメラを持ち出して、三脚に載せおもむろにパチリと・・・



夜に洩れた光に向かってきて玄関に止まることは何年も前から行われていることだが、早速玄関の開け閉めに困った。どこかに移してやろうと手を差し伸べても止まった戸から離れようとしなない。強引に手のひらに乗せようとするやと転がって落下したまま、こんどは動こうともしない。つまみあげて、手に乗せると今度はしがみついて離れようとしなない。我が家には猫がいるので襲われまいと近く柱に移したところ、そこが気に入ったのか、今度は動かないままになった。手に乗せてみると眺めているだけよりも愛情が沸くものである。その夜はまた寒空の何処かに旅立っていった。



12月1日、今度は裏の窓ガラスに一匹見つけた。彼女はそこに根が生えたように数日の間ピクリともしないで止まったままである。だいぶ旅に疲れたのか前翅が少し破れていた。近くで見るとますます山姥だ。



1月になって、今年もフサザクラに20個ほどの薄緑色の繭が吊り下がっている。葉が散った後なので提灯の灯かりみたいによく目立つ。ウスタビガの名前の由来は吊り下がっている様が手火に似て入ることから薄手火蛾となったそう。近くにコナラの木があるがフサザクラの方に多く着いているのは後者を好むのだろうか。2~3割の繭には卵が2~多いものでは8個も付着していた。

春先には、まだ芽が出てこないフサザクラに繭がたくさん付いていたのを思い出してPCの中の写真を掘り出してみると「あった、あった、4月24日の写真だ」。繭の周りに卵と羽化したばかりの幼虫が付いている。この幼虫が今回の訪問者ではないと思うが、・・・



ところで、この繭から糸は紡げないのだろうか？ヤママユなどは高級な絹糸が取れるのだが、ウスタビガから得た糸はまだ耳にしない。

